

# 農村景観 応援団 金田団員 と語る



京都府、和束町担当者との意見交換会  
茶畑の将来について、様々な思いが述べ  
られました



堀町長(右)の案内を受ける農村景観  
応援団 金田団員(左)  
【人間文化研究機構 機構長】

## 景観全体の調和を常に意識 することが大事

### 地元

和束町は、山腹に約六十ヘクタールの茶畑が広がっており、宇治茶(和束茶)の産地として知られています。

この地域のお茶の特長は何かという地形です。朝夕の寒暖の差が激しく、大きな川と豊かな森林があるため、霧が発生し易く、それが宇治茶の旨みを引き出しています。

つまり、この地形を守ることは、宇治茶を守る事と同じなのです。この景観を残していくには、茶産業が活発でなければなりません。農業従事者にとつて、急斜面での作業は重労働ですが、この地形だからこそ、宇治茶を守っているのです。

お茶という資産とこの景観をしっかりと活用して町づくりに役立てたいと思います。

例えば、茶畑の景観を多くの人に知ってもらうため、茶産業と観光産業の連携による新たな産業振興が図れないかと考えております。

### 金田団員

すばらしい茶畑の景観を多くの人に広く知ってもらう事によってプラスの面がありますが、**全体の調和というものを常に気を付けながら進めて下さい。**

景観は悪い意味で毒されてしまうと台無しになることがあります。伝統的で落ち着いた町並みに、けばけばしい建物が出来たら、町並み自体壊してしまいます。それが、お茶の郷に起こってはならないのです。茶園のすばらしさがくすんでしまいます。

また、**町の色は何かということを常に意識し、看板や案内板のデザインや形も考えると良いのではないのでしょうか。**

イギリスの場合、文化財の案内看板の色を全部薄茶色に統一しています。

車で走っていても、大きな看板ではありませんが、色調が統一されているので文化財の案内だと、すぐに分かります。案内板は大きければ良いのではなく、分かり易くなければなりません。インフォメーション能力が高く、色、デザインを全体の調和を考えながら選んで頂きたいと思っています。

関連して二つの例をお話ししましょう。一つは、沖縄県の石垣島の南にある竹富島の話です。

そこには、行政とは別に、竹富島憲章という地元住民による自発的な決まり事があります。

例えば、道路は舗装せず、珊瑚礁の白い砂を毎年撒きます。

垣根は珊瑚礁で作った石垣や赤瓦の伝統的な家々など景観を守るために努力しています。

更には、島以外の人に土地を売らない事です。借家がありますが、最低二三年は島で生活し、お祭りや行事があれば、住民とともに参加し、住民達に島の住民になることを認めてもらえたら、土地を買う事ができます。

そのため、観光客は多いですが、リゾートホテルなどは絶対に建設されません。このように住民達によつて竹富島の景観は守られているのです。

もう一つは、イギリス南部コッツウオールズという丘陵地帯の話です。

産業革命以前は羊毛で毛織物産業が盛んでした。しかし、産業革命以後はフランドル地方、スペイン、北アメリカから羊毛が輸入されるようになり、

地元の小規模な羊毛産業が壊滅状態に陥りました。小さな村が廃れ、取り残された地域になってしまいました。

それが、デザイナーのウィリアム・モリスがこの地をイギリスで最もイギリスらしい村だと讃えてから地域は変わりました。

彼は週末毎にロンドンから来て滞在したそうです。やがて文化人たちも訪れるようになり、コッツ

ウォールズは活性化し、見直されるようになったのです。

今では、世界中から観光客が訪れるようになってきました。

私も滞在しましたが、特に観光をメインに押し出すことはしていません。

観光客は自家用車でなく、公共交通機関を利用すること、ホテルは古い屋敷を利用し、あまり多くはありません。

**伝統的な生活パターンを維持することが、観光政策の一つとなっています。**

イギリスではこのような政策決定を議会ではなく、全て委員会で行われます。

伝統的なものの維持については、とても気を配って決定します。家の修理やデザイン、形、標識など真剣に審議されます。

こうしてコッツウォールズのすばらしい景観は維持され、守られているのです。

世界中から遠くても訪れ、景観を楽しむ時代になってきたのではないのでしょうか。

## 町の色を考える

### 地元

看板の件ですが、京都府では、府の景観資産登録第一号として選定された説明看板を設置することになっていきます。

景色の良いビューポイントに看板を設置する予定です。

しかし、色、デザイン等あまり考えておりませんでした。

普通の看板ですが、景観を壊すような事があつたら問題です。和束町で看板を作る場合に金田先生の印象でどんな色をイメージされますか。参考までにお聞かせ下さい。

### 金田団員

茶畑の緑色とは違う、落ちついた色、例えば、小豆色はどうでしょうか。

または緑色に合う茶系の色でも良いでしょう。

出来れば、京都府の景観資産の場合は、色を全部統一すれば、京都府内を見て回る時は、分かり易いと思います。

オーストラリアでは六百以上のワイナリーがあり、ワインの試飲や見学をすることが出来ます。

そこでは案内看板として、うす紫色のぶどうのマークを使っています。

その看板は意外と目に付き、ワイナリーに容易に行くことが出来ます。

結果として看板は大きいもの、ハデなものを避け、周りの迷惑にならないよう、考えて下さい。

### 地元

茶園の作業小屋など茶畑の景観に配慮することはあります。

茶畑の中には、大きな建物を建てることは基本的に考えておりません。

### 金田団員

作業小屋は当然、お茶を作るために必要です。

それをわざわざ、建て替えることはしなくても良いと思います。

今、国の重要文化的景観の選定のため、大阪府泉佐野市を調査しています。

かつて莊園があつたところで、タマネギの産地であちこちにタマネギの乾燥小屋があります。

それをどうするか問題になりましたが、当然タマネギを作るために必要なものなので、乾燥小屋も含めて考えることになり、選定に向けて調査を続けています。

以前からあるものを壊したり、建て替える必要はないと思います。

### ●地元住民のコメント

この町の代表的なものは何かと聞かれた時、町の木、町の花などは思い浮かびますが、町の色までイメージしたことはありませんでした。色々な発想があると思いました。

この町は、宇治茶とともに発展してきました。誰もが、この宇治茶を代表する風景に誇りを持ち、「茶景観を守ることは、宇治茶を守ること」ということを常に意識しています。

このことが、後継者の育成にも繋がっていくと思います。

今回の意見交換会を大きな財産として、今後の町づくりの推進に役立てたいと考えています。

### ●農村景観応援団 金田団員のコメント

京都府の景観資産として登録された時に、この地域の色々な情報は詳しく聞いていたのですが、本日、初めて、現地に伺わせていただき、改めて茶園に囲まれた景観や集落のすばらしさを感じました。

子供達の総合学習の時間に、茶摘み体験など、お茶に触れさせ、その意識を高めていくことは、景観を大切にしていける気風を作る上でも大変重要だと思います。

この地域は茶産業が発展し、すばらしい地域資源に恵まれています。それを大切にしていけることが重要だと思います。

今後は、国の重要文化的景観を視野に入れて京都府と相談しながら、御検討頂けたらと思います。